

子どもと保護者の こころが軽くなる支援

—発達障がいが疑われる子どもたちを中心に—



2017年11月24日

前川あさ美(東京女子大学)

今日の話の流れ



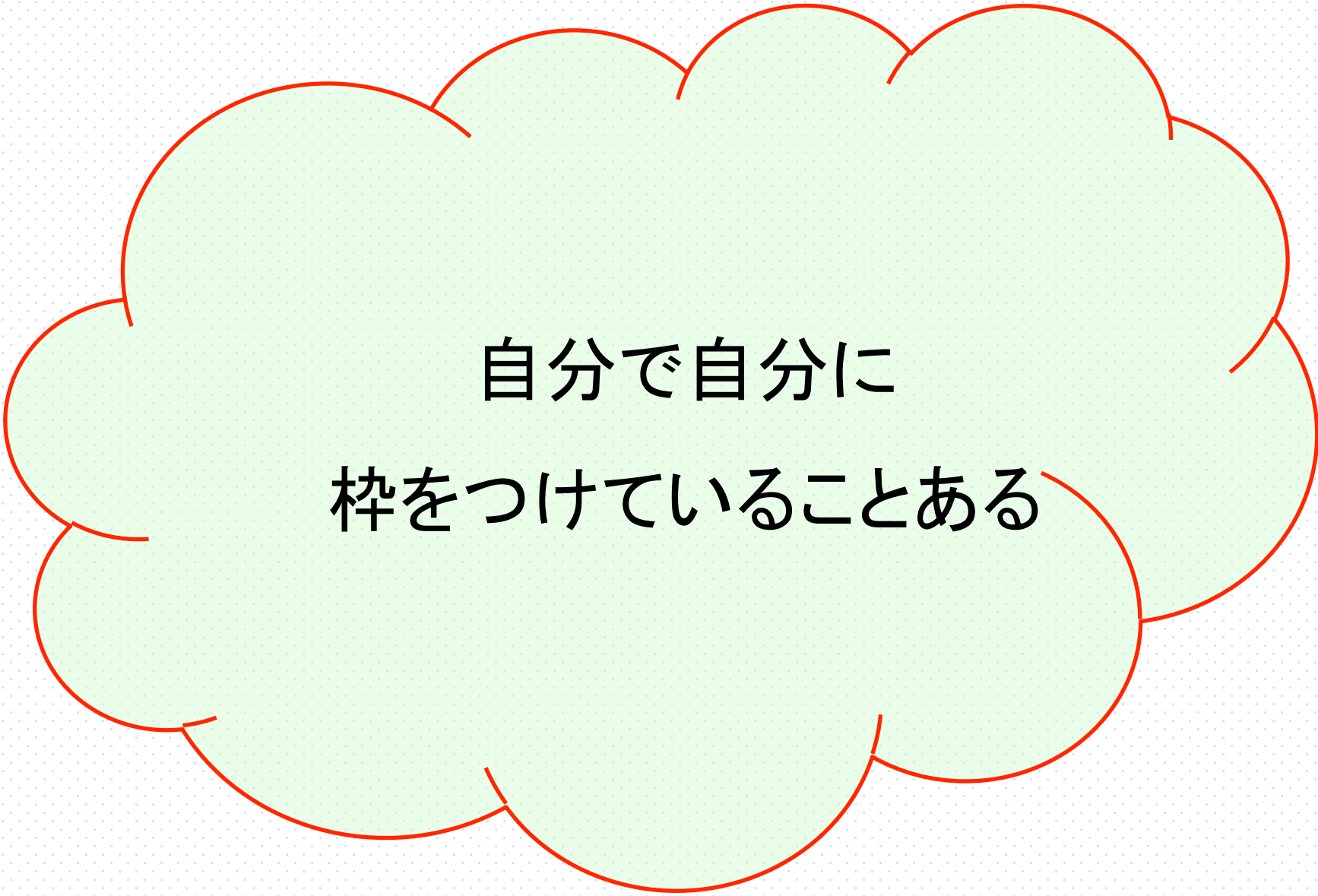
◆アイスブレイキング

◆子どもとの関わり

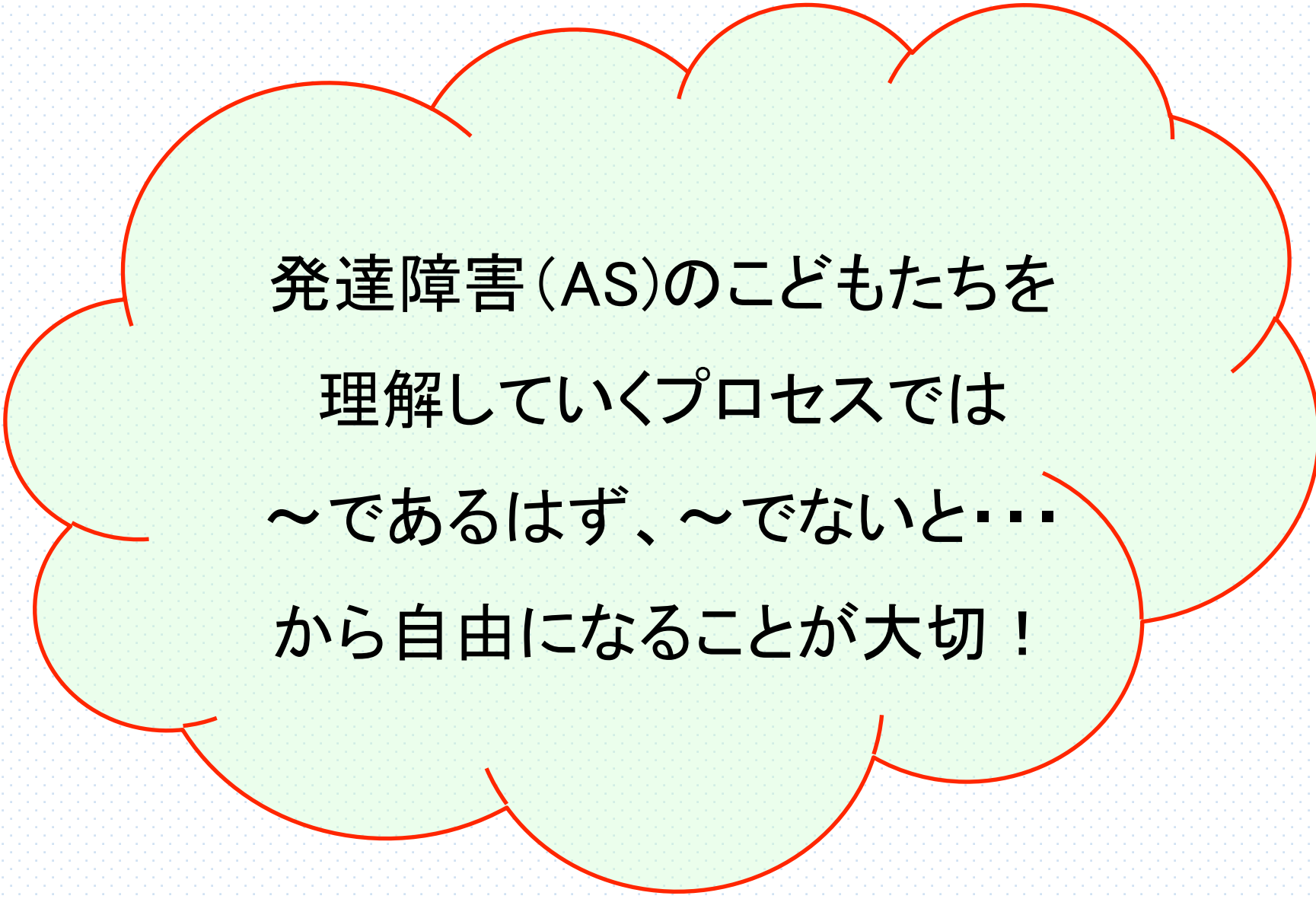
◆親のとの関わり



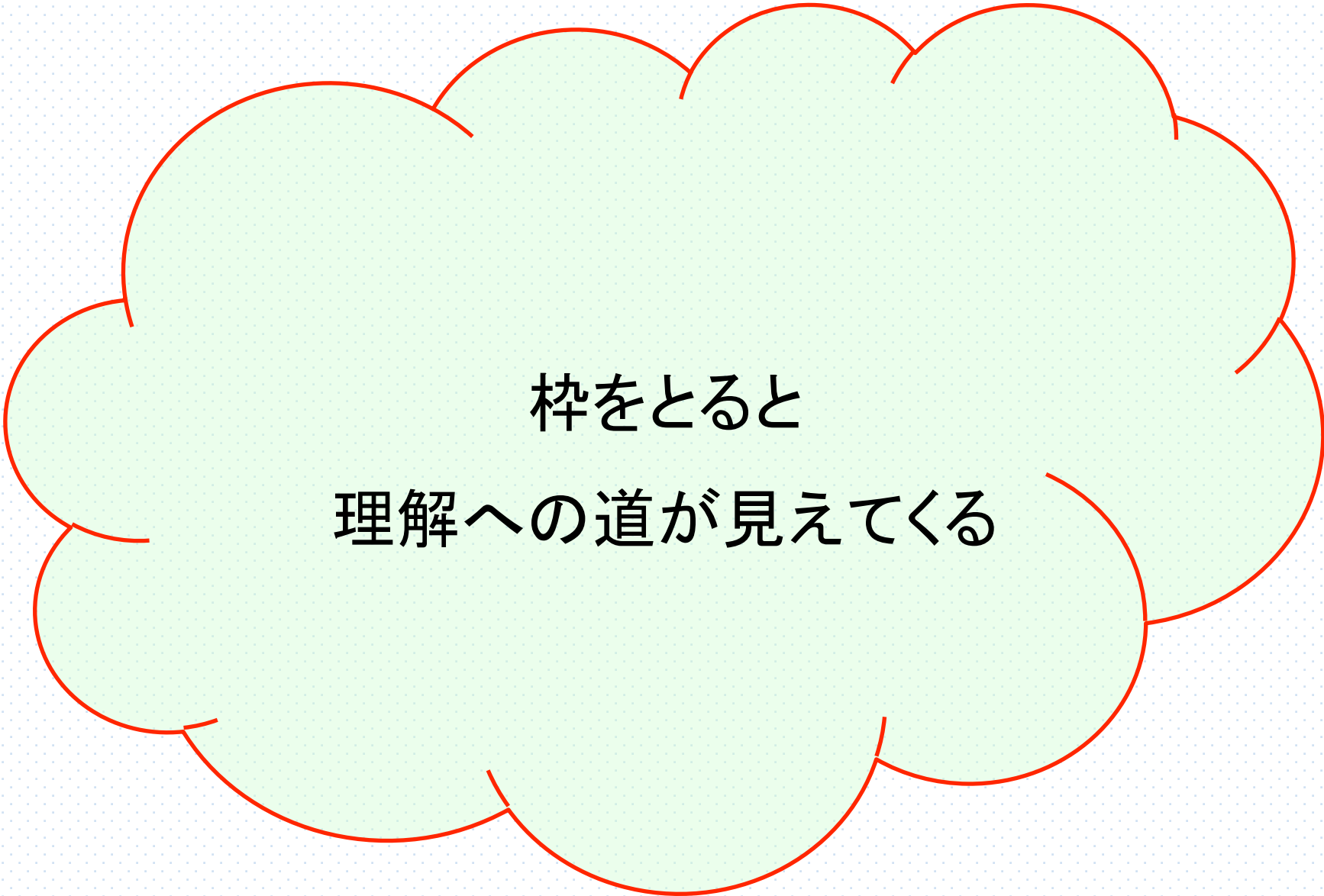
アイスブレイキング



自分で自分に
枠をつけていることある



発達障害(AS)のこどもたちを
理解していくプロセスでは
～であるはず、～でないと・・・
から自由になることが大切！



枠をとると
理解への道が見えてくる



子どもとの関わり





子どもとの関わり 困った子って、よく言われる・・・

□相手の側から世界を見ることは決して容易ではない。

例 穴の底にいる人たちの体験

相手の目から世界をみてるこ

高い穴



深い穴



子どもとの関わり 困った子って、よく言われる・・・

□相手の側から世界を見ることは決して容易ではない。

例 穴の底にいる人たちの体験

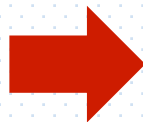
相手の目から世界をみてることの大切さ

□困った行動（問題行動や症状も含めて）は入場券

「困った子」とみなされてしまう彼らが体験している

「困っている世界」に目をむけてみよう。

困った子



困っている子



子どもとの関わり

困った子

...

よい。

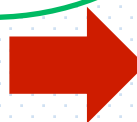
理解は急がなくていい

券

験している

つ。

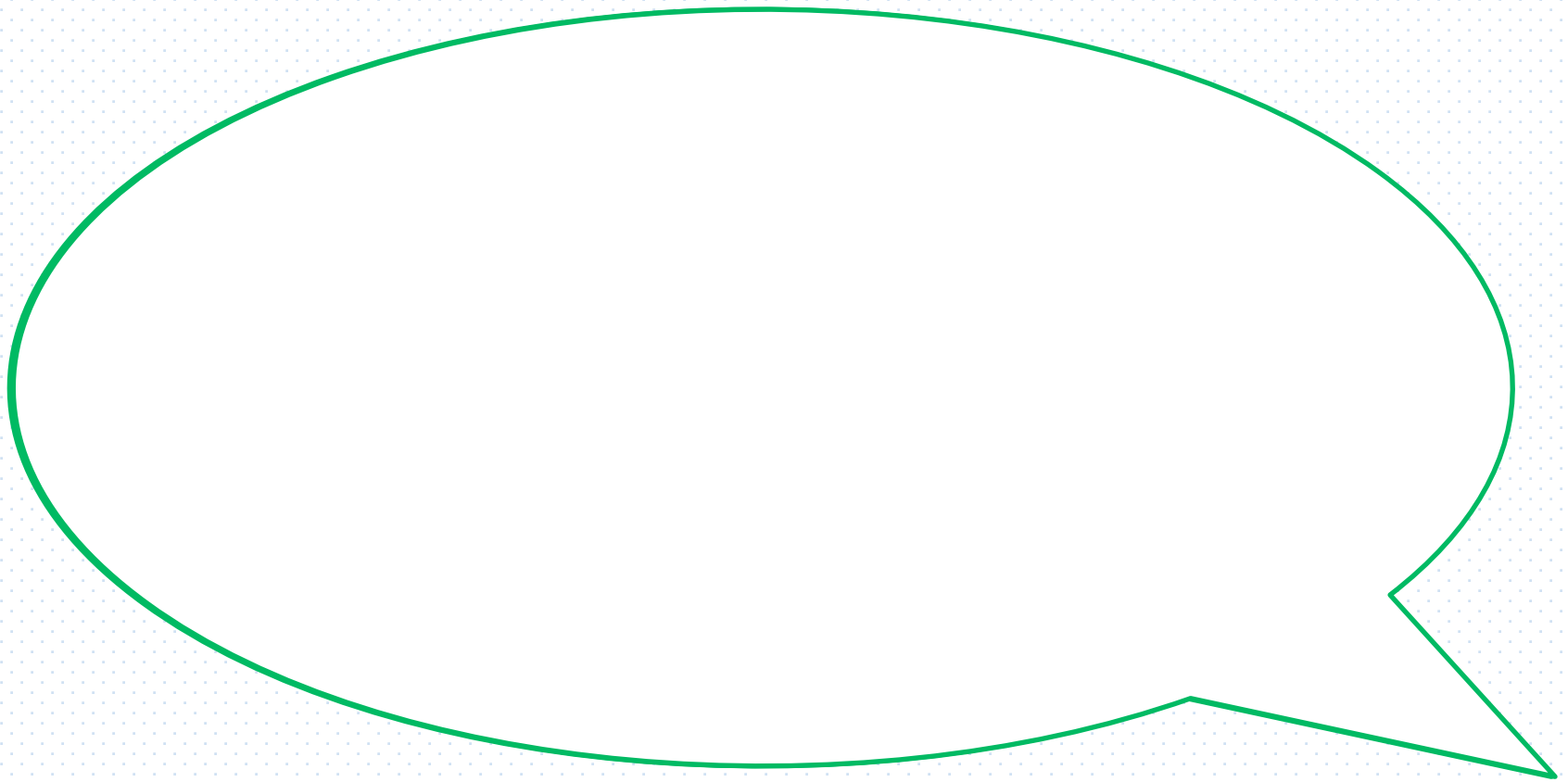
困った子



困っている子

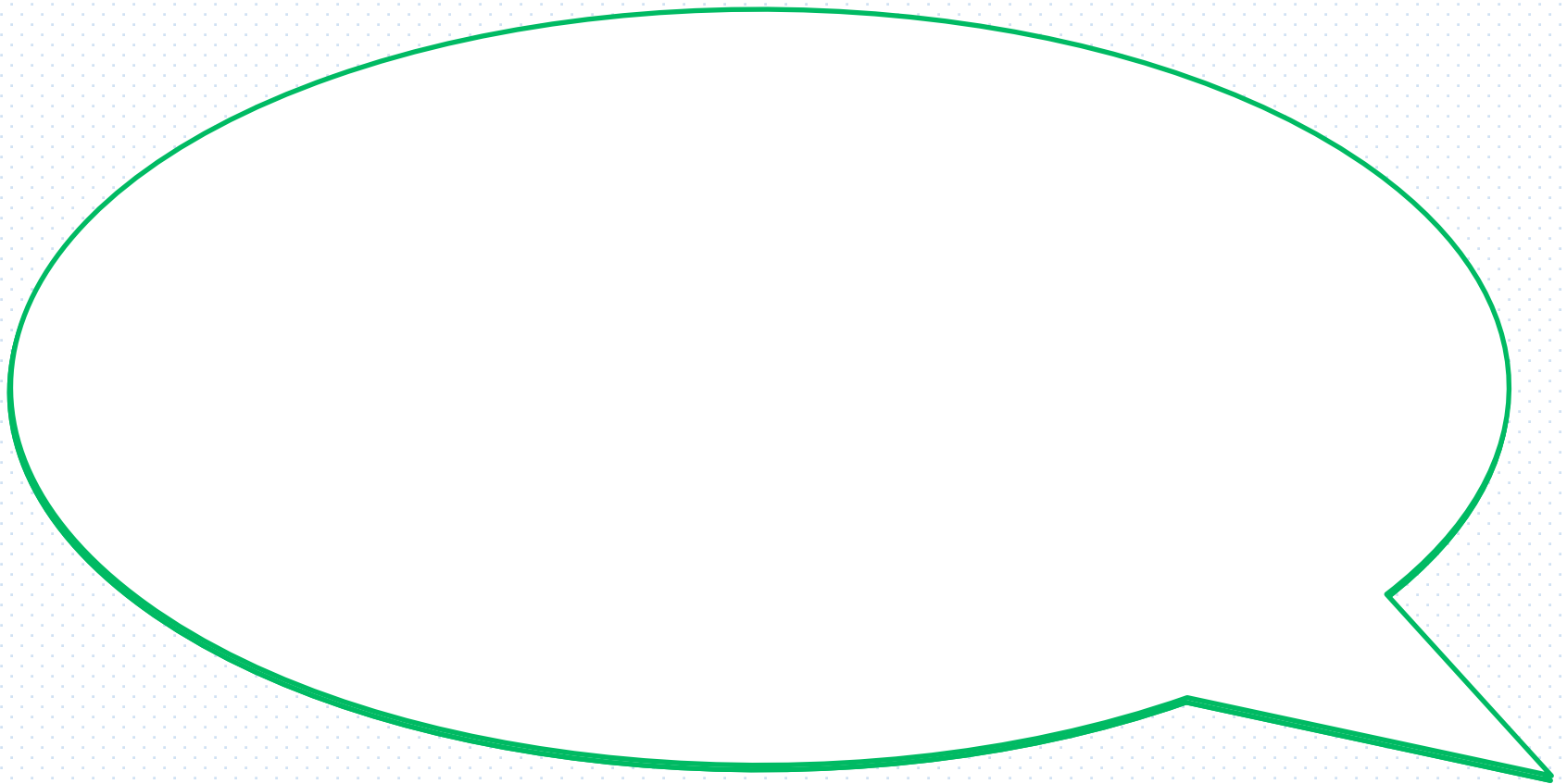
こんなふうにいわれたら……

どうせ、先生になんて わからないよ。



こんなふうにいわれたら……

どうせ、先生になんて わからないよ。



子どもとの関わり② 「相手の気持ち」になるって、何 だ？！

- 見えないもの、触れられないもの、また、抽象的なものを理解するのが苦手な子どもたちがいる。
- 自閉症といわれるが、他者に関心がない訳ではない。
- 感情や気持ちの読み取りは不得意な子が多い。

例 ほめられてる、叱られてるが分からない！

→ ほめ方の工夫 例 隕石のクイズを出させる

→ 適応的な行動は型(パターン)で

子どもとの関わり③

なんで、みんなは分かるんだ？

視覚化

予告化

具体的

肯定的

簡潔さ

子どもとの関わり③

なんで、みんなは分かるんだ？

気を付けていても、通じないことがある。
理解してくれないことがある。

発達障害(AS)の子どもたちに
ユニークな障害

例 台風がきている

今日は満月だ

お母さんがお父さんと喧嘩したなど

子どもとの関わり④

生まれてこなければよかったんだ！

□ユニークな脳をもった子どもたち

字が揺れるから読めないよ(ディスレクシア)

皆のには色がついていないの？(共感覚)

覚えるってどういうこと？(デジタル記憶)

□違いは、間違いではない。でも、違いを間違いと感じてしまうことは多い。

→ 自己評価の低下など二次障害

孤立 ひきこもり 抑うつ状態 自殺念慮等

子どもとの関わり④

生まれてこなければよかったんだ！

□ユニークな

字

習

覚

□違いは

てしまうことは

→ 自己評価の低下 欠陥障害

孤立 ひきこもり 抑うつ状態 自殺念慮等

彼らをあわせる支援＋
彼らに合わせる支援

と感じ



親との関わり



親との関わり①

親なんだからっていわれるけれど

親でしょ、
向き合えなくて
どうするの。

親なんだから、
認めないって
いわれてしまった・・・。

親との関わり①

親なんだからっていわれるけれど

□ 親だから頃、受容は簡単にできない。

受容できていないのは、向き合えていないからでもない

□ 受容は決してゴールではない。

受容できる時期もあるだろうが……

親との関わり①

親なんだからっていきなりはらド

□ 親だ

□

揺れる心に寄り添うことが
支援になる

親との関わり①

親なんだからっていわれるけれど

□ 親だから頃、受容は簡単にできない。

受容できていないのは、向き合えていないからでもない

□ 受容は決してゴールではない。

受容できる時期もあるだろうが……

□ 親の覚悟へのサポート

現在 未来 過去 → 新しいアイデンティティ形成

□ 診断への抵抗感

ほっとするという人もいるけれど。

親との関わり①

親なんだからっていわれるけれど

□ 親だから頃、受容は簡単にできない。

受容できていた

でもない

□ 受容

診断の断は、

断定の断ではなく**断面**の断

成

□ 断

ほっとする。断。

親との関わり②

あの子の「あるがまま」はどうなる？

□ 小さいころから

□ 彼らにだけ

□ 適応す

その適

彼らの

彼らの特

例 じっとすわって

りたち

より

に広げる

が完成できない子

彼らに合わせる支援
＝合理的配慮

親との関わり③

甘やかしてはだめっていわれるけど

□ 注意できない親

例 注意した...

「育てにくい

□ 罪責感や

障害

例 「

□ 受容と甘

□ 指導やしつ

感情は否定しない

そのうえで、行動を制限

自立

他者とともに生きる

情はない

発達段階を理解した支援(前川 2016)

小学校低学年まで	思春期以降
成功体験を増やせるような場をつくる。	失敗体験も与え、失敗することはいけないことではないことを理解できるように。
一人でできることを増やせるように指導する。	助けが必要な時に「助けて」を言えるように指導する。
「すごい」「えらかった」「よくできた」などわかりやすい言葉でほめる。	「ありがとう」「ご苦労様」「助かった」など感謝とねぎらいの言葉をかける。
他者に対して安心感をもつ力を育てる。	他者との関係の中で、自分を守る力を育てる。
「違い」を補う力を育てる。	「違い」を理解し、それを生かす力を育てる。

親との関わり④ 見守りましょうといわれたけど

- 専門家がよくいう「見守りましょう」は親の不安を強め、混乱させ、孤立させてしまうことが多い。

例 放置してしまう じっとみている

手持無沙汰で駆けずり回る

→ 「見守る」は具体的にどうあることか？

つながる

対話する

- 支援力を豊かにするには「支えられる体験」が必要



ご清聴ありがとうございました